

勝林寺々報

三月のことば

歳月をむなしく

すごす人は

地獄におちて

くるしむ

お釈迦様は、そのような私ということにまず「めざめなさい」とおつしやいま

の道をたどるばかりです。

お釈迦様がおはじめになつた「仏教」は、私がさとりを開いて仏になり、覚者すなわち「真実にめざめた」者になる道を教えられた宗教です。

いまの私たち、私のいのちを支えているダルマ（法・法則・真如・真実）には気づかないで、あたかもこの私の力を生きていくように思つたりふるまつたりしております。ちょうど、宇宙の中をとんでいる小さなカブセルの中で、それが私の世界だとその中だけでくらしていりようなもので。

大きなダルマの中にありながら、小さな「我」にとらわれとじこもつてくらすことから、人生のいろいろな苦悩や罪業が生れてきます。苦しみから苦しみの道を歩まねばなりません。罪から地獄への道をたどるばかりです。

真実からの声ナモアミダブツによびます

されたいのちから超えて、「大いなるいのち」（無量寿）に生きかえることができるのです。仏教ではそれを「往生」というのです。

仏教は、死んでから先のことを教えるダルマにめざめること、あるいはダルマそのものをブツダ（仏）といいます。

新規行事事業は極力ひかえること、しかしながら超えて、「大いなるいのち」（無量寿）に生きかえることができるのです。仏教ではそれを「往生」というのです。

お釈迦様がおはじめになつた「仏教」

は、私がさとりを開いて仏になり、覚者すなわち「真実にめざめた」者になる道を教えられた宗教です。

いまの私たち、私のいのちを支え

ているダルマ（法・法則・真如・真実）には気づかないで、あたかもこの私の力を生きていくように思つたりふるまつたりしております。ちょうど、宇宙の中をとんでいる小さなカブセルの中で、それが私の世界だとその中だけでくらしていりようなもので。

大きなダルマの中にありながら、小さな「我」にとらわれとじこもつてくらすことから、人生のいろいろな苦悩や罪業が生れてきます。苦しみから苦しみの道を歩まねばなりません。罪から地獄への道をたどるばかりです。

す。そして私を大きくつゝんでいるダルマ真実に「めざめなさい」と教えられます。

もちろん「めざめ」ていない今の私にはわかりません。私にはわかりませんが

それがほんとの真実なら、わからない私には、わかるうとしない私に、真実はここにあるのだと、むしろより強力に働きかけているはずです。でなければほんとの真実ではありません。

二月十四日（日）、昭和五十七年度の行事や予算を決める「代議員会」が開かれました。

欠席一部落という高出席率でした。永井貞雄総代を議長に選び、まず昭和五十六年度の経過報告と経常会計並びに特別基本会計につき住職から詳細報告があり承認されました。その後、「代議員」制について「宗教法人勝林寺運営規定」からの説明と、同規定中の「基本金」についてもあらためて詳しく説明がありました。

了承しました。

続いて昭和五十七年度の行事計画と予算案が

住職から提案されました。

行事については本堂大屋根のことよりも

新規行事事業は極力ひかえること、しか

し前住職・前坊守の一周年忌法要と過去帳

の整備とは執行しなければならないこと

が話し合われました。

予算に関連して先ず経常費割等級につい

て協議しましたが、従来からの申合せへ

院号は一等（再確認するなかで今年度

の予算についても若干の上下修正をしま

した。審議の結果可決された予算は左表

の通りです。

次に、「勝林寺仏教教育壮年会」の拡充についての話し合いがありました。

仏教婦人会とともに勝林寺の実際上の

中核であり、ことに近年めざましい活動成果を挙げている「仏壯」であるにも関わらず、入会協力が伸び悩んでいる現状打開の方途が協議されました。

いま一段のPRと入会勧誘についての協力が代議員に要請されました。

最後に本堂大屋根葺替事業推進のことでつき、今

日までの詳しい経過を報告するなかで特に代議員に寄附推進上の依頼がなされました。寄附金納入期限を五月末を目途として設定しました。寄附に

についての具体的は打合せを二月二十七日の「推進委員会」において行なうことになりました。

行なうことになります。

二月十四日（日）、昭和五十七年度の総会を左記のよう開きます。会の拡充が期待されている今日です。

ご出席ご協議下さい。

仏教青壮年会総会（理事会）ご案内

日時 三月七日（日） 午前九時半 理事会

午後一時半 総会

会長 龟井 孝

当社「年間会費」一千円、ご納入下さい。理事さんは皆内会員欠席の場合会費ご集金下さい。

日時 三月七日（日） 午前九時半 理事会

午後一時半 総会

会長 龟井 孝

出棺勤行 / 邪式



この地方でも昔は「出棺勤行」（「うちどむらい」）と「葬場勤行」（「そとどむらい」）とが別々の場所で行なわれていました。しかし現在では多く、同じ式場で統一して行なわれるようになります。けれども、この二つの式はその意味あいが別ですので、そのことを心においておつとめしなければなりません。

「出棺勤行」というのは、亡くなつた方がいよいよ家のお仮壇にお別れをする式です。ですから当然この式はお仮壇に向つてなされべきです。

式場設営のときに、すでにお仮壇を閉じたり幕でかくしてしまつたりするの大間違です。お仮壇をこそ平常よりもていねいにお莊厳してお別れの式をしてもらわねばなりません。

どうしても家の構造上お仮壇が出せない場合は、止むをえませんから、せめてお仮壇のご本尊おかげじを壇の最上段に掲げて式を行なうべきです。（勝林寺ではこのような場合、寺からおかげじを次に掲げておきます。）

この「出棺勤行」では住職が亡き人にかわつてお別れのおつとめとして「帰三宝偈」をあげます。これは凡そ四百年も続いているならわしです。この「偈（うた）」の最初と最後の部分の意訳を今こそこの無常を縁としてみなともにかたい志をふるい起して一挙に煩惱を断ち阿弥陀さまのお慈悲の世界へ入らしていただくことをよろこんで私はあらためて帰依し合掌し礼拝するのです。（中略）

趣旨

この門標は浄土真宗に帰依するものが「みんなで福祉をあつめる運動」を広く推進し、その運動の一環として作製されました。
温かい心で お念佛の友の輪をひろげ
豊かな社会づくりに 精進しましょう

念佛の心を社会福祉へ

このみはとけのおはたらきのあることを聞いていただいて、みな同じく悟りへの心をおこし、阿弥陀さまのおいのちに生きかえらしてもらつてほしいものです。

仏教は、どの宗教よりも「いのちの尊さ」をうつたえています。一切衆生、生きとし生けるもののいのちを慈悲の心で尊んでいく宗教です。

今の厳しい世の中で、その尊いのちを生きあぐねている人々がいます。先ずそのような人々にこそ、はとけのいのちに帰つてもらわなくてはなりません。

おみのりを聞いたよろこびを、その人も分けたいものです。社会福祉事業のための資金を、あなたのお念佛の心でつくり出して下さい。

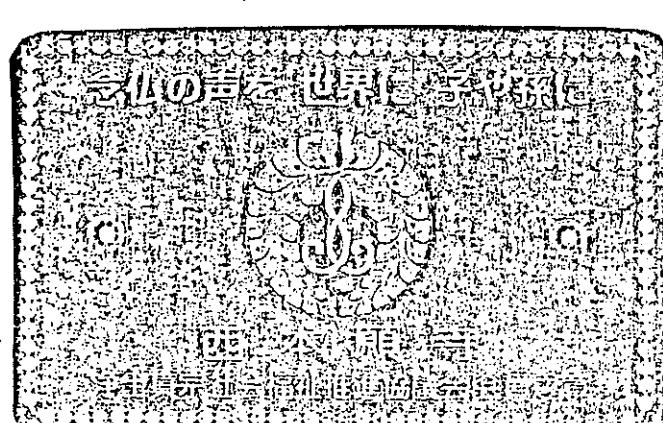
このプレイト（一枚千円）をおたくの門標にして下さい。真宗門徒の恥としてすぐ寺に申込んで下さい。

春彼岸会ごあんない

今年は春秋とも結願の日に
おつとめします。
さそいあつておまいりください。

三月二十四日（水）午後二時

講師 堀孝文師



浄土真宗社会福祉推進協議会会員之章

あなたの
お心を

今月からいよいよ本堂大屋根ふきかえ工事の寄附募集が始まります。祖先の並々でない努力と懇念で護持されてきた本堂をどうぞ、あなたの心いっぱいの懇志でお守り下さい。

三月予定

一日／上第 兵庫教区同朋問題研修班講座講師に出張
二日 木山にて前住職追悼法要

四日 佛教及教化推進協議会へ出張

五日 生田善七氏宅法事
六日 仏社理事会・総会、三組合同仏婦研修会（豊岡光行寺）・豊岡護法寺仏社部へ出張

十日

十一日／十三日 草津龍光寺永代供養説教へ

十四日 本覚寺法事・湯口昇司氏宅法事

十五日 高嶋成義氏宅・坂本賀民氏宅法事

二十一日 山田太郎氏宅・数森三男氏宅・数森昭臣宅法事

二十二日 成田晴氏宅法事・仏社仏婦合同役員会

二十三日 春の彼岸会説教

二十四日 善立寺法事・数森計治道氏宅法事

二十五日 みのりを聞く会

二十六日 陈山武雄氏宅法事

二十七日 山田恩一氏宅法事

二十八日 善立寺法事・数森計治道氏宅法事

二十九日 金久繁一氏宅法事

三十日 陈山武雄氏宅法事

二十七日 善立寺法事・数森計治道氏宅法事

二十八日 善立寺法事・数森計治道氏宅法事

二十九日 金久繁一氏宅法事

三十日 陈山武雄氏宅法事

勝林寺仏教婦人会新役員

決まる

一月二十四日の評議員会で次の役員が決まりました。任期は一年。

会長	宮嶋重子（小谷）
副会長	宮嶋敏子（正法寺）
同 同 同	
会計	
田 横 横 田 数 森 敏 子	（小田）
横 横 田 中 田 中 和 子	（栗尾）
田 中 和 子	（栗尾）

ご苦労様です。
みなさん、どうぞご協力ください。